

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 30 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	小・中学校校庭芝生化事業					
2 担当課名	教育庶務課	担当者名	小倉隆弘	内線	4104	
3 予算科目	会計	一般会計	款	10	教育費	
	大事業	4	小学校施設整備事業	項	2	小学校費
	中事業	0		目	1	学校管理費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	5,000,000円		決算額	3,616,750円	
	主な支出 (科目、金額)	需用費	1,026,154円			
		委託料	398,196円			
		工事請負費	2,192,400円			

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	児童、生徒に森と緑に対して関心を持ってもらうために、小・中学校の校庭に芝生の植栽を行う。 平成30年度は三和小学校の校庭の一部 710㎡に植栽を行った。
6 事業の目的、効果	芝生の植栽は児童、生徒に潤いと安らぎを与えてくれるとともに、その後の芝生の維持管理を行うことで、芝生の生育、管理を学ぶ教材として活用することができる。また環境問題への取り組み、児童たちの運動能力の向上、ケガ防止、情操教育の推進の効果が得られる。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	平成30年度にあいち森と緑づくり都市緑化推進事業交付金が終了する予定だったが、平成31年度以降も引き続き延長された。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	②現状維持	毎年1校程度、希望のある学校に芝生の植栽を行う。
9 事業の問題点	あいち森と緑づくり都市緑化推進事業交付金を活用しての事業となるので、採択されるかどうかが問題となる。また維持管理などの学校と地域との協議が整わない場合は実施できない場合がある。	

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 30 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	小中学生文化事業（委託契約）					
2 担当課名	学校教育課	担当者名	天野万喜男	内線	4205	
3 予算科目	会計	一般会計	款	10	教育費	
	大事業	11	体育・文化発表会開催事業	項	1	教育総務費
	中事業	0		目	3	教育指導費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	1,200,000円		決算額	1,200,000円	
	主な支出 (科目、金額)	13その他委託料	1,200,000円			

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	小中学生文化事業とは、児童生徒の豊かな心や感性を育むことを目的に合併前の西尾市で半世紀以上前から行われている、全児童生徒の美術作品を一堂に展示する小中学生美術展と選抜された児童生徒が出演する小中学生音楽会（ミュージカル）を隔年で西尾市教育委員会が西尾市教育研究会（相互研修や教育振興等を目的とした小中学校教職員による任意団体）に業務委託して開催しているものである。
6 事業の目的、効果	小中学生美術展については、児童生徒が作品を制作する喜びを高めるとともに美術教育のあり方を広く地域社会に伝えている。小中学生音楽会については、郷土を舞台として創作されたミュージカルに取り組むことで、故郷を愛する心を育てるとともに力を合わせて作品を創り上げる過程を通して音楽教育研究を推進している。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	小中学生美術展については幼稚園も含めた児童生徒約16,000人の作品の展示準備から撤去までを約1,000人の教員が担うことが大きな負担となっている。また展示会場が旧幡豆郡から遠方であるため見学者が偏っている。小中学生音楽会については選抜児童生徒約750人と指導教員約50人が夏季休暇中の9回の合同練習以外にも個別の練習時間を割いていることから負担が大きい。また、会場収容人数の関係で参観者数が限定されている。 いずれも開始当初の状況が現在の学校教育現場とは大きく異なり、今ではそれぞれの目的を達成する教育メニューは他にも存在することと、費用対効果の面からも数年前より見直しを求める声が上がっている。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	④廃止	事業開始当初の目的は達成されている中、働き方改革が最も求められている（委託先でもある）教員の負担があまりに大きいこと。また練習時間を割く児童生徒の負担も少なくない。このため、現在の学校の実態との整合性を勘案し事業自体の廃止も含めた検討が必要と考える。
9 事業の問題点	旧西尾市では半世紀以上の長年にわたり続けてきた事業であるため、見直し検討にあたっては本事業の教育的価値や効果を考慮する必要がある。また、教員の多忙化解消の観点も忘れてはならない。	

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 30 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	歴史検定事業					
2 担当課名	生涯学習課	担当者名	吉永裕二	内線	55-3515	
3 予算科目	会計	一般会計	款	10	教育費	
	大事業	1	成人教育事業	項	5	社会教育費
	中事業	0		目	3	生涯学習費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	656,000円		決算額	612,740円	
	主な支出 (科目、金額)	謝礼	50,000円			
		印刷製本費	505,440円			
会場借上料		57,300円				

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	<p>対象者：西尾の歴史に興味を持つ市内・市外の中学生以上の方</p> <p>概要：西尾市総合教育会議における西尾歴史検定の実施要望を受け、西尾市初の試みとして事業を実施した。『ふるさと教本西尾』を活用し、5回の学習会の開催後、11月に検定試験を実施した。</p>
6 事業の目的、効果	<p>目的：合併後の西尾市民の融和と地域への関心・故郷への愛着を深めるとともに、市外への広報に努め、県内・全国に西尾市の歴史を発信する。</p> <p>効果：本事業には定員100人程度のところ、150人という多くの方に応募いただき、歴史に対する知識の向上と併せて、西尾市への関心や故郷への愛着、誇りを更に深めていただけたものと考えます。また、数名の方が観光ボランティアガイドに加入され、ガイドとして学習成果を生かしている。</p>

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	歴史に特化した事業の継続では、目新しさが無くなり、市民の関心が薄れ、応募者の減少が予想される。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	④廃止	歴史検定事業としては、一定の成果を挙げることができたとの判断により令和元年度をもって廃止の方向で検討している。今後は「歴史」に限定することなく、「抹茶」や「うなぎ」など、西尾ならではのテーマで事業が展開され、検定事業が更に広がっていくことを期待する。
9 事業の問題点	本事業は、市民の方が西尾市の歴史に関心を持ち、故郷への愛着を深めていただく意味では非常に意義ある事業であったと考える。今後、歴史以外のテーマでこのような検定事業を展開していくうえで、事業を実施した後の成果をいかに活用していくのかといった、仕組みづくりが課題であると考えている。	

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 30 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	スポーツ教室開催事業				
2 担当課名	スポーツ課	担当者名	小早川明子	内線	54-0002
3 予算科目	会計	一般会計	款	10	教育費
	大事業	03	スポーツ教室開催事業	項	06 保健体育費
	中事業	00		目	01 保健体育総務費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	6,550,000円		決算額	6,350,115円
	主な支出 (科目、金額)	報償費	2,796,600円	委託料	2,725,222円
		需用費	374,193円	使用料及び賃借料	230,700円
		役務費	223,400円		

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	<p>市内在住・在学・在勤の人。</p> <p>○春期・秋期は1講座10回、冬期は1講座8回を基本として年3回開催。一般(高校生以上)を対象にバドミントン・卓球・エアロビクス・健康体操・バレエエクササイズ・ヨガ教室、小学生を対象にスケートボード・卓球教室、幼児を対象に運動教室、親子を対象に親子体操教室を開催した。</p> <p>○一般テニス・女性テニス・女性ソフトテニス・早朝テニス・弓道、スキー・アーチェリー教室は西尾市スポーツ協会に委託している。</p>
6 事業の目的、効果	<p>日頃スポーツをする機会の少ない市民に対し、ひとりでも参加できるスポーツ教室を通じた健康づくりや体力向上のきっかけを与えるとともに、スポーツを通じた仲間づくりの機会や日常生活への活力と楽しさを与えている。</p>

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	<p>行政が行う教室には限りがあるため、西尾市スポーツ協会への教室委託や総合型地域スポーツクラブによってスポーツ参加者が増えることを期待。</p>	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	②現状維持	<p>スポーツ教室はスポーツを始めるきっかけとなることが期待されている。また、多種多様な種目を体験してもらい、その中から自分に適した種目を見つけ、健康づくりや体力づくりに繋がれば、医療費の削減に結びつくことが期待されている。</p>
9 事業の問題点	<p>バドミントン教室、幼児教室、親子教室は抽選になるほどの人気があるが、まだスポーツに関心を持っている方が少ないように思います。市民のニーズに合った新しい教室を開講する必要がある。</p>	

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 30 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	市史編さん事業				
2 担当課名	文化振興課	担当者名	齋藤俊幸	内線	56-8711
3 予算科目	会計	一般会計	款	10	教育費
	大事業	8	市史編さん事業	項	5 社会教育費
	中事業	0		目	5 文化振興費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	34,443,000円		決算額	31,504,333円
	主な支出 (科目、金額)	賃金	6,859,847円	委託料	1,916,892円
		報償費	17,833,547円		
旅費		3,403,440円			

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	平成23年の合併によって広がった西尾市の歴史や文化を市民や西尾の歴史を学ぶ方へ分かりやすく伝えていくため、『新編西尾市史』の編さんを行う。
6 事業の目的、効果	前回の市史編さんから40年余りが経過している。その後に発見された歴史資料や最新の知見を反映させながら、合併後の新しい西尾市の歴史・文化・風土・自然等を記録し、紹介する『新編西尾市史』の編さんを行う。市史の刊行を通じ、市民の郷土に対する理解と愛着を深め、西尾の未来を担う子供たちの教育にも役立てる。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	市史の刊行や刊行記念イベントを通じ、市民の郷土の歴史への理解と愛着が深まる。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	②現状維持	令和元年5月30日に第1冊目となる『新編西尾市史 資料編1 考古』を刊行した。今後、編さん計画に基づき、令和11年までに通史編5冊、資料編4冊、別編4冊の刊行を順次予定している(合計14冊刊行予定)。
9 事業の問題点	編集委員長をはじめ編集委員(部会長)の中には高齢な方もいるため、令和11年刊行予定の『別編4 年表・索引』まで携わっていただけるとの心配である。現在の歴史・自然研究は専門の細分化が進んでいるため、委員の数が年々増加し(令和元年7月現在のべ130名)、まとめるための事務局の事務的負担、心理的負担も増加している。	

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 30 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	離島サービス事業				
2 担当課名	図書館	担当者名	黒野泰明	内線	56-6200
3 予算科目	会計	一般	款	10	教育費
	大事業	図書館事務・図書館運営事業	項	5	社会教育費
	中事業		目	10	図書館費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	62,280円	決算額	19,208円	
	主な支出 (科目、金額)	旅費	3,280円	消耗品費	19,208円
		消耗品費	55,000円		
		運搬費	4,000円		

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	平成31年2月から、佐久島総合開発センター（ロビー）に本のコーナーを設置し、島民の方が利用できるようにした。また、図書館の予約本を、ホームページから申込み、佐久島開発総合センターで受取ることができるようにした。
6 事業の目的、効果	図書館は市内全域サービスとして、市民の誰もが同じように本に触れる機会を提供するため、佐久島にも図書館サービスポイントを設置し、島内に本と触れ合える環境と機会を作り、読書を推進する。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	島内に本を扱う店や施設がないため、島から船での移動が必須であり、渡船料もかかるため、図書館の来館の頻度が少ない状態は変わらない。ただし、インターネットができる世代は電子書籍の普及により、読書の機会を確保することができる。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	②現状維持	老人、大人、子どもが生活の中で活字に触れられる環境や機会の提供は必須であると思う。
9 事業の問題点	インターネットを利用できない高齢者は、ホームページから本の検索ができないため本の検索や予約ができない。	